

STAR

取扱説明書

飼料カッタ

製品コード K71061
型式 SFC2340

マウントカッタ

製品コード K50086
型式 MFC2340

モータベースアタッチメント

製品コード K70077
型式 AMD2310

サポートホイールアタッチメント

製品コード K50079
型式 ASW3000

部品ご注文の際は、ネームプレートをお確かめの上
部品供給型式を必ずご連絡下さい。

“必読”機械の使用前には必ず読んでください。

スター農機株式会社



⚠ 安全に作業するために

安全に関する警告について

本機には、⚠印付きの警告ラベルを貼付しています。安全上、特に重要な項目を示しています。警告を守り、安全な作業を行ってください。

警告ラベルについて

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを示します。

⚠ 警告

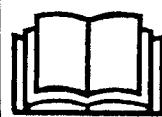
その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれがあることを示します。

⚠ 注意

本機を運転するときには、必ず取扱説明書をよくお読み下さい。



1. 作業に適した、だぶつきのない服装で行って下さい。
2. 酒を飲んだとき、過労ぎみ、病気や妊娠しているときは、作業をしないで下さい。子供には運転させないで下さい。
3. 本機を運転するときは、周囲の安全を確認して下さい。
4. 運転前には、必ず点検や調整をして下さい。
5. 点検や調整をするときは、必ずP TOなどの動力遮断や動力停止（エンジン、電源など）をしてから行って下さい。
6. 点検・調整で取り外したカバー類は、必ず元通りに取り付けて下さい。
7. 他人に本機を貰うときは、必ず「取扱説明書」をよく読んでから作業するようすすめて下さい。

部品番号 106164

⚠ 危険

運転中又は回転中、ローラに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。
供給口から中には、手を入れないで下さい。

部品番号 106509

⚠ 警告

運転中又は回転中、ケーシングを開けると、回転刃およびフライホイールに接触し、ケガをする事があります。
ケーシングを開けないで下さい。

部品番号 106507

⚠ 注意

運転中又は回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。
カバーを開けないで下さい。

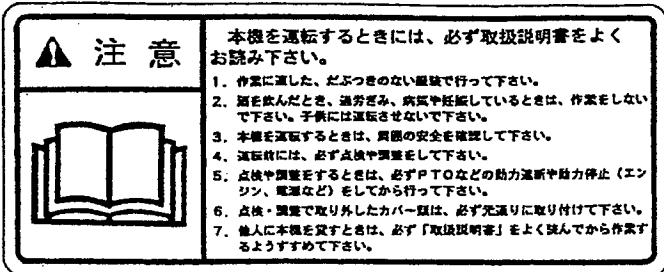
部品番号 106511

⚠ 注意

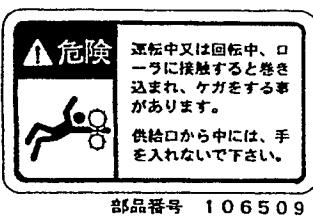
運転中又は回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。
カバーを開けないで下さい。

部品番号 106513

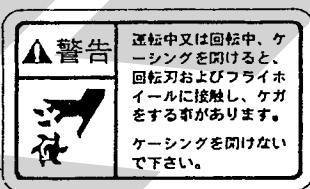
飼料カッタ



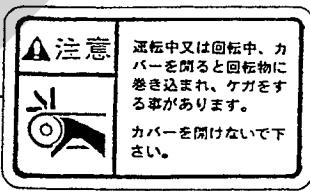
部品番号 106164



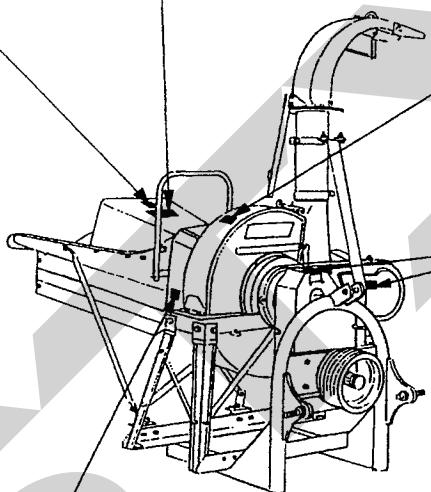
部品番号 106509



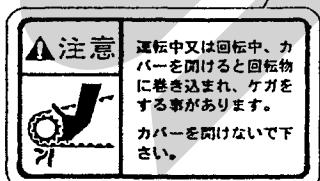
部品番号 106507



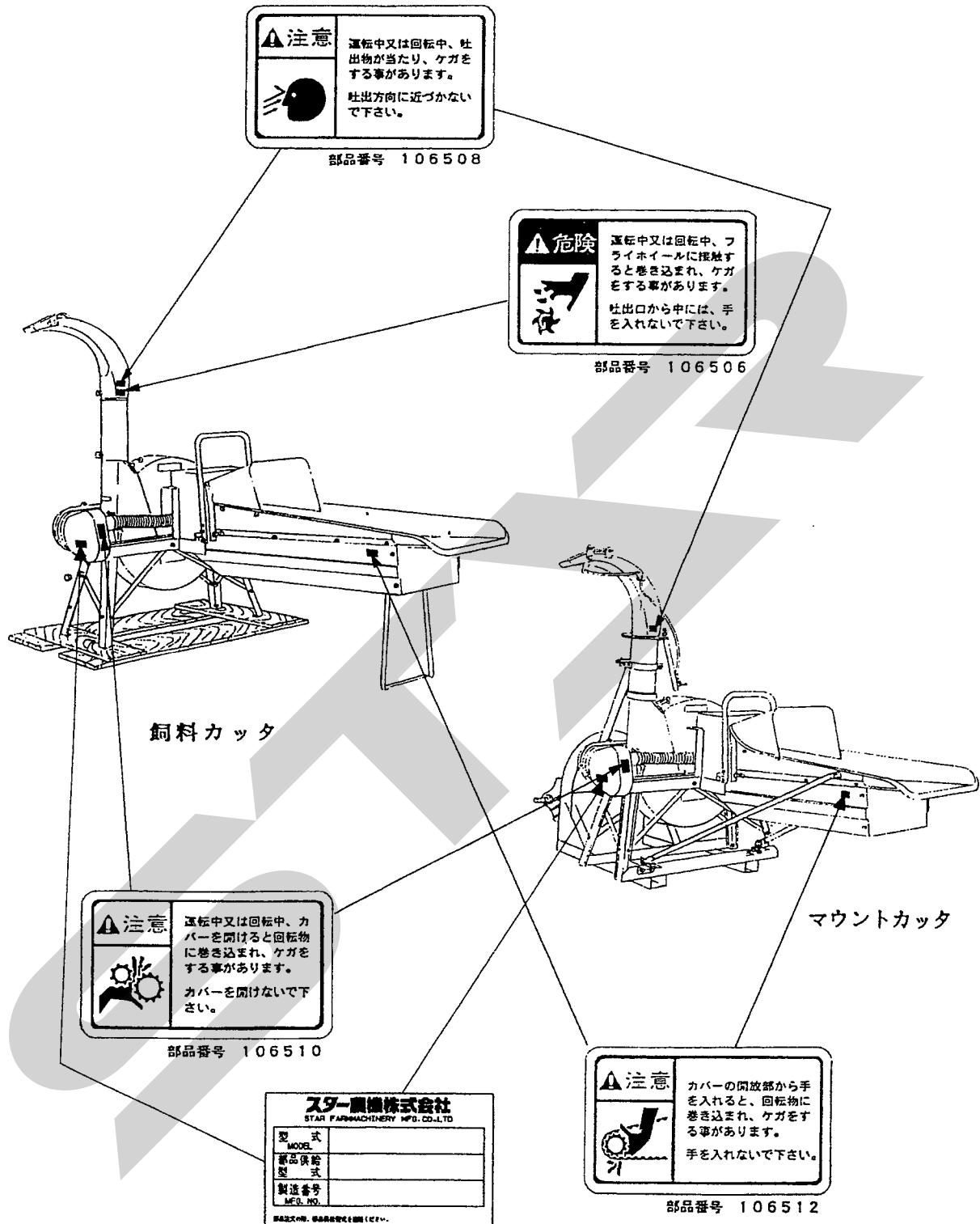
部品番号 106513



マウントカッタ



部品番号 106511



— ラベルが損傷した時は —

警告ラベルは、使用者および周囲の作業者などへ危険を知らせる大事なものです。
 ラベルが損傷した時は、すみやかに貼り替えてください。
 注文の際には、この図に示す 部品番号 をお知らせください。

安全操作上の注意点

ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害を生じる恐れがあります。

作業前には、作業機およびトラクタの取扱説明書をよくお読みになり、十分に理解してからご使用ください。

作業前に

取扱説明書は製品に近接して保存を

▲ 注意

- 機械の取り扱いで分からぬ事があった時、取扱説明書を製品に近接して保存していくため、自分の判断だけで対処すると思わぬ事故を起こし、ケガをする事があります。取扱説明書は、分からぬ事があった時にすぐに取り出せるよう、製品に近接して保存してください。

取扱説明書をよく読んで作業を

▲ 注意

- 取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領の不十分な理解のまま作業すると、思わぬ事故を起こす事があります。作業を始める時は、製品に貼付している警告ラベル、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項、取扱要領を十分に理解してから行ってください。

こんな時は運転しないでください

▲ 警告

- 体調が悪い時、機械操作に不慣れな場合などに運転すると、思わぬ事故を起こす事があります。

次の場合は、運転しないでください。

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できない時。
- 酒を飲んだ時。
- 機械操作が未熟な人。
- 妊娠している時。

服装は作業に適していますか

▲ 警告

- 作業に適さない服装で機械を操作すると、衣服の一部が機械に巻き込まれ、死亡を含む傷害をまねく事があります。

次に示す服装で作業してください。

- 袖や裾は、だぶつきのないものを着用する。

□ ズボンや上着は、だぶつきのないものを着用する。

□ ヘルメットを着用する。

□ はちまき、首巻きタオル、腰タオルなどはしない。

機械を他人に貸す時は

▲ 警告

- 機械を他人に貸す時、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領が分からぬため、思わぬ事故を起こす事があります。

取扱い方法をよく説明し、取扱説明書を渡して使用前にはよく読むように指導してください。

機械の改造禁止

▲ 注意

- 機械の改造や、当社指定以外のアタッチメント・部品などを取り付けて運転すると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。機械の改造はしないでください。

アタッチメントは、当社指定製品を使用してください。

部品交換する時は、当社が指定するものを使用してください。

始業点検の励行

▲ 注意

- 始業点検を怠ると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。

作業を始める前には、取扱説明書に基づき点検を行ってください。

エンジンを使用する時は

▲ 危険

- エンジンに燃料を補給する時、くわえタバコや裸火照明の元で行なうと燃料に引火し、ヤケドをする事があります。

火気の元で燃料を補給しないでください。

▲ 警告

- エンジンにブーリを取り付ける時、定められた直径より大きなブーリを取り付けると高速回転によりカッタが破損しケガをする事があります。

定められた直径のブーリを取り付けてください。

- エンジンが熱い間に、給油すると引火しやケドをする事があります。

熱い間は給油しないでください。

▲ 注意

- エンジン側ブーリを防護しないで運転すると巻き込まれケガをする事があります。

- カバーなどで防護してください。
- カッタに動力を伝達するベルトを防護しないで運転すると巻き込まれケガをすることがあります。
- カバーあるいは柵などで防護してください。
- エンジンの周囲に可燃物を置くと引火し火災を起こすおそれがあります。
- 可燃物は置かないでください。

エンジンを始動する時は

▲ 警 告

- クラッチを切らないでエンジンを始動すると、急にカッタが駆動され、周囲にいる人がケガをすることがあります。
- クラッチを切ってから始動してください。
- 室内で始動する時、排気ガスにより中毒になることがあります。
- 窓、戸などを開け、十分に換気してください。

モータを使用する時は

▲ 警 告

- モータにブーリを取り付ける時、定められた直径より大きなブーリを取り付けると高速回転によりカッタが破損しケガをすることがあります。
- 定められた直径のブーリを使用してください。
- モータ側ブーリを防護しないで運転すると巻き込まれてケガをすることがあります。
- カバーなどで防護してください。
- カッタに動力を伝達するベルトを防護しないで運転すると巻き込まれてケガをすることがあります。
- カバーあるいは柵などで防護してください。
- ぬれた手でプラグあるいはモータ側結線部に接触すると感電することがあります。
- ぬれた手でさわらないでください。

トラクタを使用する時

▲ 警 告

- トラクタにマウントカッタを着脱するためにトラクタを移動させる時、トラクタとマウントカッタの間に人がいると、挟まれてケガをすることがあります。
- トラクタとマウントカッタの間に人を近づけないでください。

▲ 注 意

- マウントカッタをトラクタに着脱する時、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 平坦で地盤のかたい所で行なってください。

- 装着するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をまねくことがあります。
- トラクタへフロントウェイトを取り付け、バランスを取ってください。

パワージョイントを使用する時は

▲ 危 險

- カバーのないパワージョイントを使用すると、巻き込まれてケガをすることがあります。カバーのないパワージョイントは、使用しないでください。
- カバーが損傷したまま使用すると、巻き込まれてケガをすることがあります。損傷したらすぐに取り替えてください。使用前には、損傷がないか点検してください。
- トラクタおよび作業機に着脱する時、第三者の不注意により、不意にパワージョイントが回転し、ケガをすることがあります。PTOを切り、トラクタのエンジンをとめて行ってください。

- カバーのチェーンを取り付けないで使用すると、カバーが回転し、巻き込まれてケガをすることがあります。
- トラクタ側と作業機側のチェーンを回転しない所に連結してください。

▲ 注 意

- 最伸時の重なりが100mmを下回ると、ジョイントを回転させた時、破損しケガをすることがあります。
- 最縮時の隙間が25mmよりも小さくなると、ジョイントの突き上げが起きる事があり、ジョイントの破損をまねき、ケガをすることがあります。
- 適正な重なり量で使用してください。
- パワージョイントを接続した時、クランプピンが軸の溝に納まっていると、使用中に外れ、ケガをすることがあります。
- 溝に納まっているか、接続部を押し引きして確かめてください。

公道走行時は作業機の装着禁止

▲ 注 意

- トラクタに作業機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。
- トラクタに作業機を連結しての走行はしないでください。

トラクタを始動する時は

▲ 警 告

- エンジンを始動する時、トラクタの横やステップに立ったまま行うと、緊急事態への対処ができず、運転者はもちろん周囲にいる人がケガをすることがあります。
運転席に座り、周囲の安全を確認してから行ってください。
- エンジンを始動する時、主变速レバーを「N」(中立)にして行わないと、变速機が接続状態になっているため、トラクタが暴走し思わぬ事故を起こすことがあります。
主变速レバーを「N」(中立)にして行ってください。
- PTO及びカッタのクラッチを切らないでエンジンを始動すると、急にマウントカッタが駆動され、周囲にいる人がケガをすることがあります。
PTO及びカッタのクラッチを切ってから始動してください。
- 室内で始動する時、排気ガスにより中毒になることがあります。
窓、戸などを開け、十分に換気してください。

周囲の人や対向物・障害物との間に十分な間隔を保ってください。

- 側面が傾斜していたり、側溝がある通路で路肩を走行すると転落事故を起こすことがあります。
路肩は走行しないでください。
- 高低差の大きい段差を乗り越えようすると、トラクタが転倒あるいは横転し、ケガをすることがあります。
あゆみ板を使用してください。
- マウントカッタの上に人を乗せると、転落し、ケガをすることがあります。
また、物を載せて走行すると、落下し、周囲の人へケガを負わせることがあります。
マウントカッタの上には、人や物などはのせないでください。

▲ 注 意

- マウントカッタへの動力を切らないで走行すると、周囲の人を回転物に巻き込み、ケガを負わせることがあります。
移動走行する時は、PTOを切ってください。

トラクタで移動走行する時は

▲ 危 険

- 移動走行する時、トラクタのブレーキペダルが左右連結されていないと、片ブレーキになり、トラクタが左右に振られ横転などが起こり、思わぬ事故をまねくことがあります。
ほ場での特殊作業以外は、ブレーキペダルは左右連結して使用してください。

▲ 警 告

- トラクタに運転者以外の人を乗せると、トラクタから転落したり、運転操作の妨げになって、緊急事態への対処ができず、同乗者はもちろん、周囲の人および運転者自身がケガをすることがあります。
トラクタには、運転者以外の人は乗せないでください。
- 急制動・急旋回を行うと、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こすことがあります。
急制動・急旋回はしないでください。
- 坂道・凹凸地・急カーブで速度を出しすぎると、転倒あるいは転落事故を起こすことがあります。
低速走行してください。
- 旋回する時、作業機が旋回方向とは逆方向にふくれるため、周囲の人と接触しケガをさせたり、対向物・障害物に衝突し、ケガをすることがあります。

作業中は

作業する時は

▲ 危 険

- 運転中又は回転中、ローラに接触すると巻き込まれ、ケガをすることがあります。
供給口から中には、手を入れないでください。
- 運転中又は回転中、フライホイールに接触すると巻き込まれ、ケガをすることがあります。
吐出口から中には、手を入れないでください。

▲ 警 告

- 運転中又は回転中、ケーシングを開けると、回転刃およびフライホイールに接触し、ケガをすることがあります。
ケーシングを開けないでください。
- 作業をする時、周囲に人を近づけると、機械に巻き込まれ、ケガをすることがあります。
周囲に人を近づけないでください。
- カッタ指定の回転速度を越えて作業すると、カッタの破損により、ケガをすることがあります。
指定回転速度を守ってください。
- カッタの上に人が乗ったり物を載せるとケーシング等が変形し、フライホイールでケーシング等を破損し、ケガをすることがあります。
カッタの上に人が乗ったり、物を載せたりしないでください。

- ハウス内などの室内作業をする時、排気ガスにより中毒になる事があります。
窓、戸などを開け、十分に換気をしてください。

▲ 注意

- 運転中又は回転中、吐出物が当たり、ケガをする事があります。
吐出方向に近づかないでください。
- 運転中又は回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。
カバーを開けないでください。
- カバーの開放部から手を入れると、回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。
手を入れないでください。
- カッタあるいはマウントカッタの調整や、付着物の除去などを行う時、動力を切らずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。動力を切り、回転部がとまっていることを確かめ行ってください。

トラクタから離れる時は

▲ 警告

- トラクタから離れる時、傾斜地や凹凸地などに駐車すると、トラクタが暴走して思わぬ事故を起こす事があります。
平坦で安定した場所に駐車し、トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけて暴走を防いでください。
- トラクタから離れる時、マウントカッタをあげたままにしておくと、第三者の不注意により不意に降下し、ケガをする事があります。
下限まで降ろしてからトラクタを離れてください。

作業が終わったら

機体を清掃する時は

▲ 注意

- 動力を切らずに、回転部・可動部の付着物の除去作業などを行うと、機械に巻き込まれてケガをする事があります。
動力を切り、回転部がとまっている事を確かめて行ってください。

終業点検の励行

▲ 注意

- 作業後の点検を怠ると、機械の調整不良や破損などが放置され、次の作業時にトラブルを起こしたり、ケガをする事があります。
作業が終わったら、取扱説明書に基づき点検を行ってください。
- 3点リンクでマウントカッタを持ち上げて点検・調整を行う時、第三者の不注意により、不意に降下し、ケガをする事があります。

トラクタ 3点リンクの油圧回路をロックして行ってください。

不調処置・点検・整備をする時

▲ 注意

- 機械に異常が生じた時、そのまま放置すると、破損やケガをする事があります。
取扱説明書に基づき処置してください。
- 動力を切らずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。
動力を切って、回転部がとまっている事を確かめて行ってください。
- マウントカッタをあげた状態のまま下にもぐったり、足を入れたりすると、不意に降下し、ケガをする事があります。
下に入る時は、台などで降下防止をして行ってください。
- 不調処置・点検・整備のために外したカバー類を取り付けずに作業すると、回転部に巻き込まれ、ケガをする事があります。
元通りに取り付けてください。

もくじ



安全に作業するため

安全に関する警告について	1	作業が終わったら	7
作業前に	4	不調処理・点検・整備をする時	7
作業中は	6		

1

据え付け又はトラクタへの装着

1 各部の名称とはたらき	10	4 据え付け又はトラクタへの装着	17
2 適応原動機又は適応トラクタの範囲		1. 据え付け	17
	14	《SFC2340飼料カッタの場合》	
3 組立部品	14	2. 3点リンクへの連結	17
1. 解梱	14	《MFC2340マウントカッタの場合》	
2. 組立部品の明細	14	5 パワージョイントの装着	18
3. 組立要領	14	《MFC2340マウントカッタの場合》	
4. オプション品の組立要領	15	1. 長さの確認方法	18
		2. 切断方法	19
		3. 安全カバーの脱着方法	19
		4. パワージョイントの連結	19

2

運転を始める前の点検

1 運転前の点検	20	2 原動機又はトラクタエンジン始動での点検	
1. 原動機又はトラクタ各部の点検	20		21
2. 連結部の点検	20	1. 原動機又はトラクタエンジン始動	
《MFC2340マウントカッタの場合》		での点検	21
(1) 3点リンクの連結部点検	20	2. 常用回転数	21
(2) パワージョイントの点検	20	3 給油箇所一覧表	22
3. 製品本体の点検	21		

3

作業の仕方

1 本製品の使用目的 23	3 作業要領 24
2 各部の調整 23	4 運搬 26
1. 切断長さの調整 23	
2. コンベヤの張り調整 23	
3. ナイフと受刃の隙間調整 23	

4

作業が終わったら

1 作業後の手入れ 27	2 長期格納する時 27
--------------------	--------------------

5

点検と整備について

1 点検整備一覧表 28

6

不調時の対応

1 不調処置一覧表 29

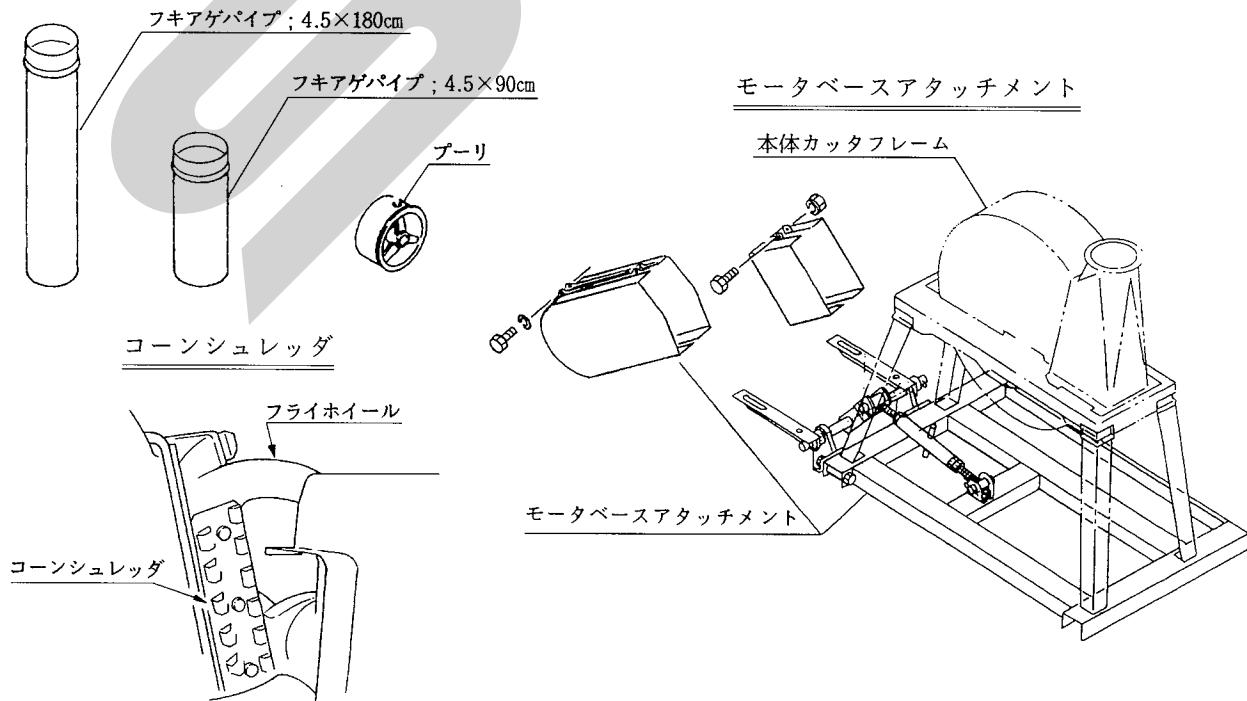
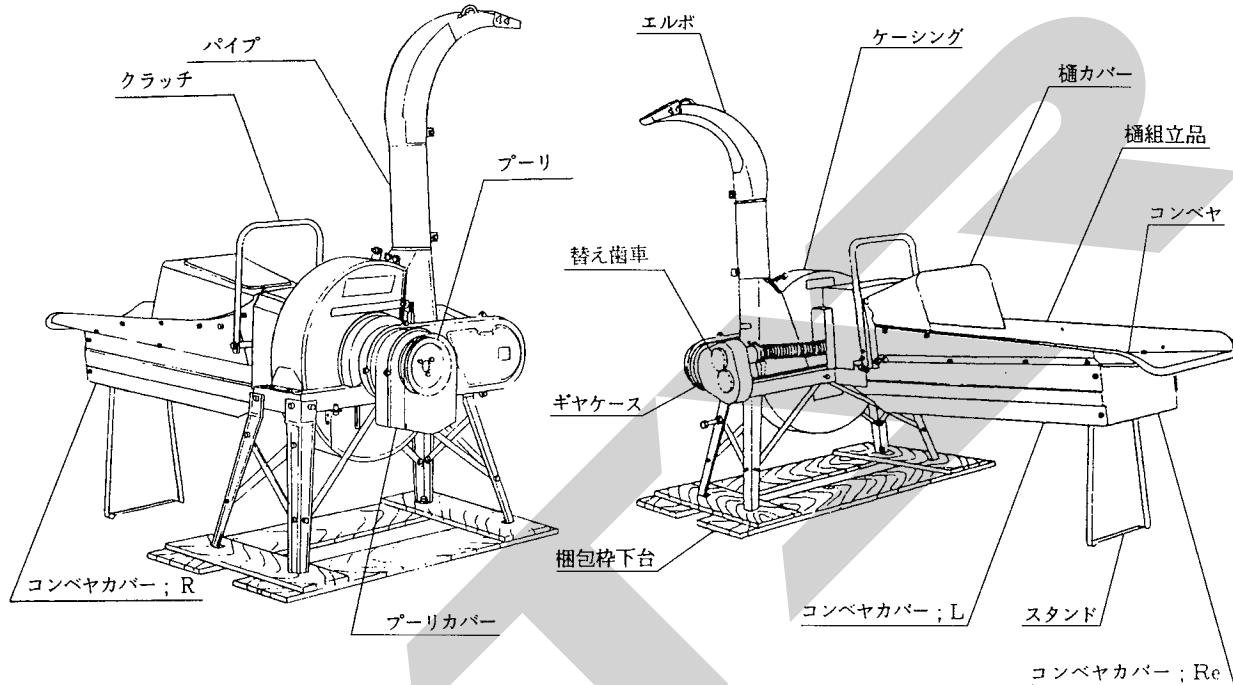
型式・仕様について 30

1 据え付け又はトラクタへの装着

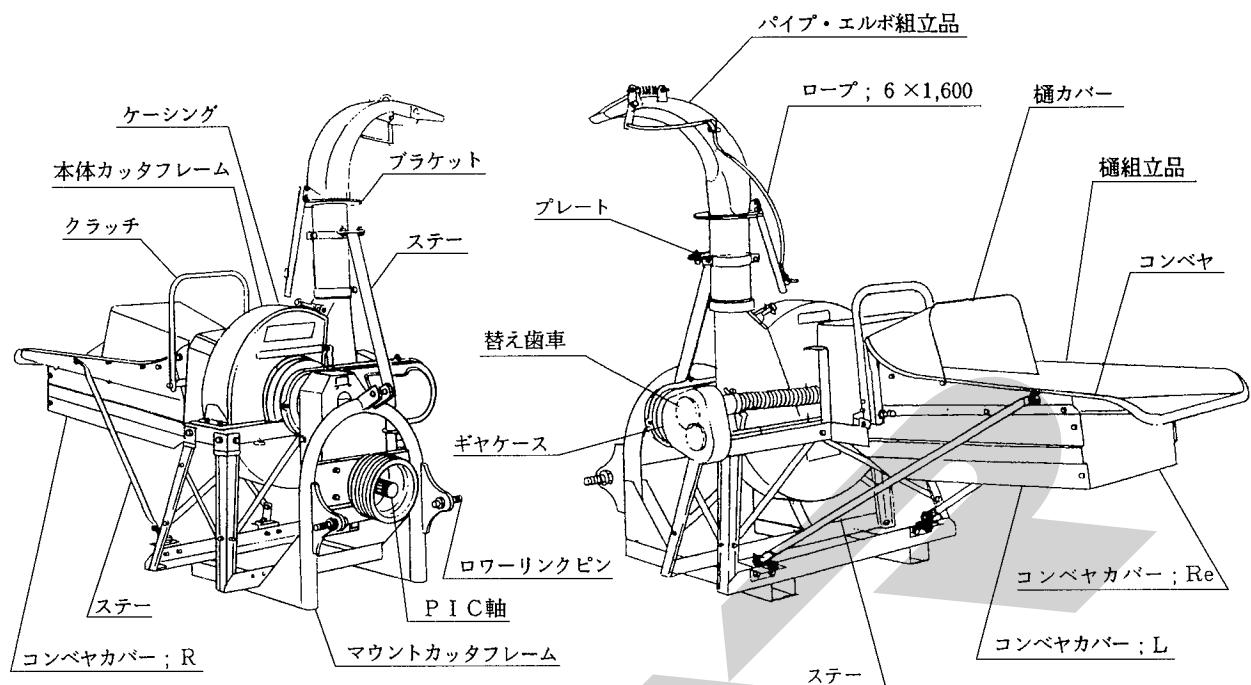
適切な装着で安全な作業をしましょう。

1 各部の名称とはたらき

《飼料カッタの場合》

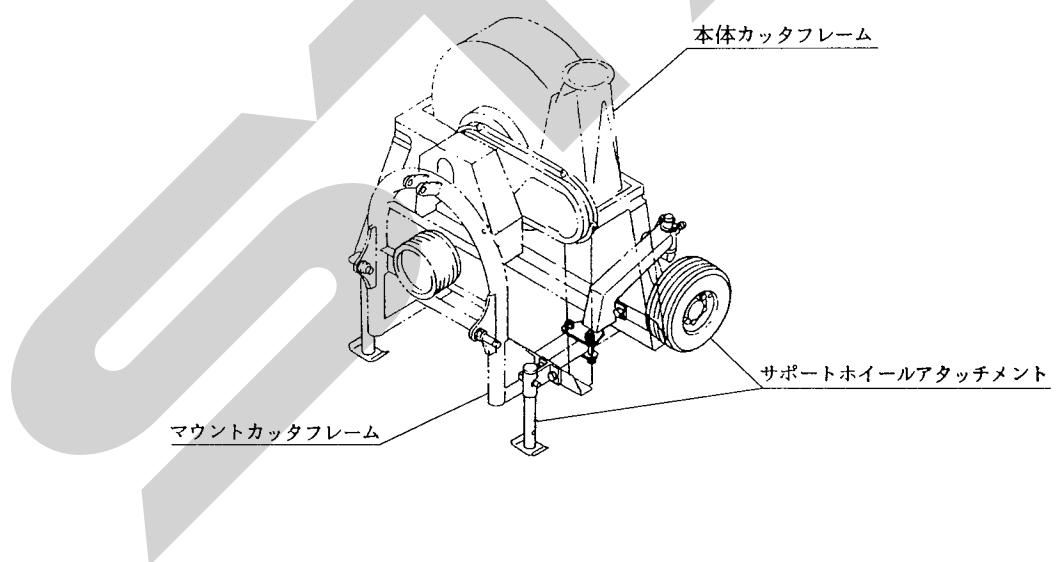


《マウントカッタの場合》



[オプション]

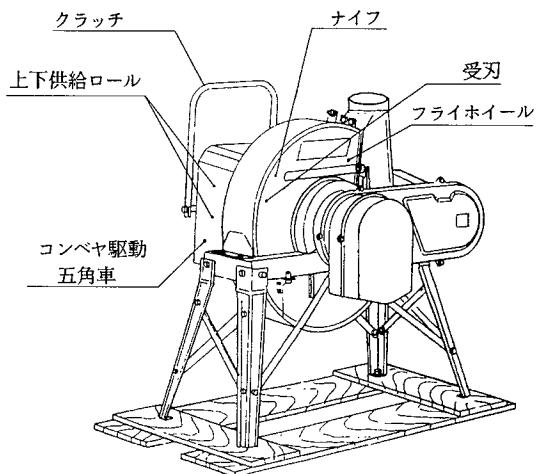
サポートホイールアタッチメント



1. 本体カッタフレーム

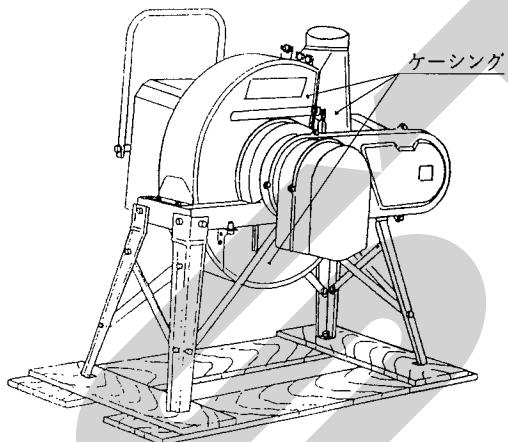
飼料細断物の供給・切断・吹き上げ・放出を行うところです。

コンベヤ駆動五角車・上下供給ロール・ナイフ・受刃・フライホイール・クラッチが装備されています。



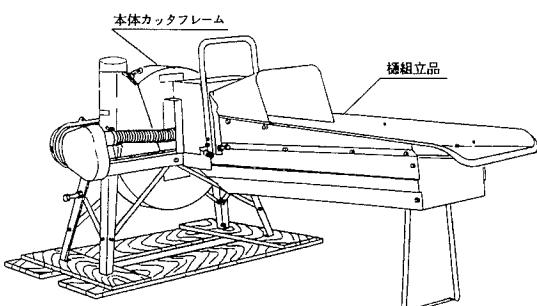
2. ケーシング

飼料細断物の飛散を防ぐとともにフライホイール・ナイフ・受刃の防護・カバーをかねています。



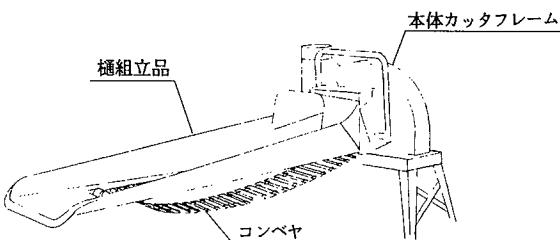
3. 棚組立品

本体カッタフレーム内に供給しやすいよう飼料細断物を乗せるところです。



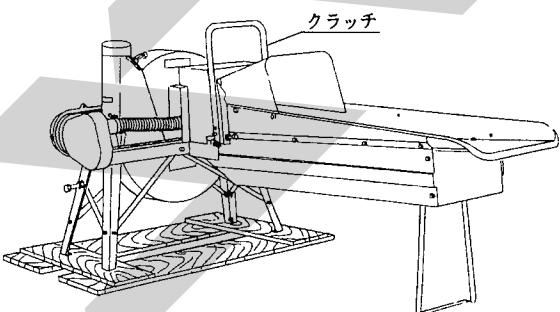
4. コンベヤ

飼料細断物を本体カッタフレーム内に送り込みます。



5. クラッチ

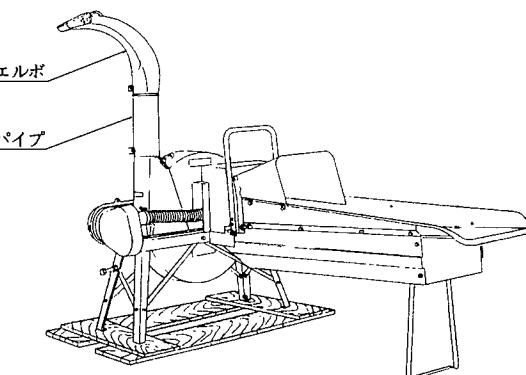
コンベヤの進行方向及び上下供給ロールの回転方向（前進・停止・後退）を切替えます。



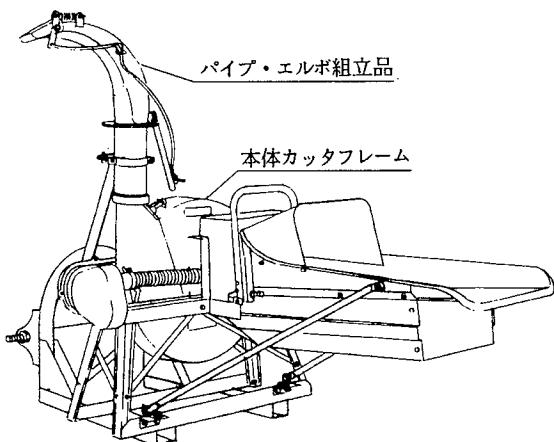
6. パイプ・エルボ

本体カッタフレーム内で切断・吹き上げされた飼料細断物を飛散させず所定の場所に放出させます。

《飼料カッタの場合》

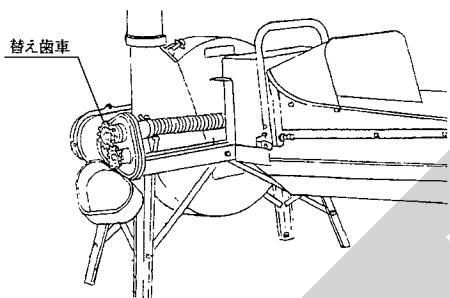


《マウントカッタの場合》



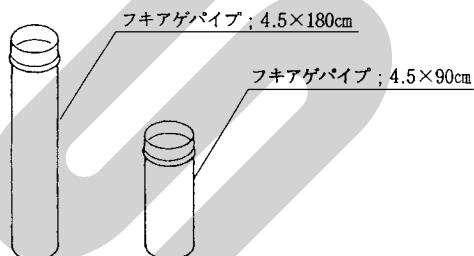
7. 替え歯車

飼料細断物の切断長さを歯車の組合せで替えます。



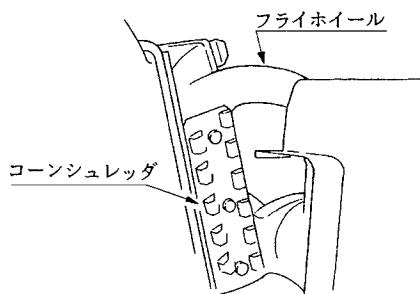
8. フキアゲパイプ [オプション]

飼料細断物をサイロなど高い場所まで吹き上げ放出する場合の延長パイプです。



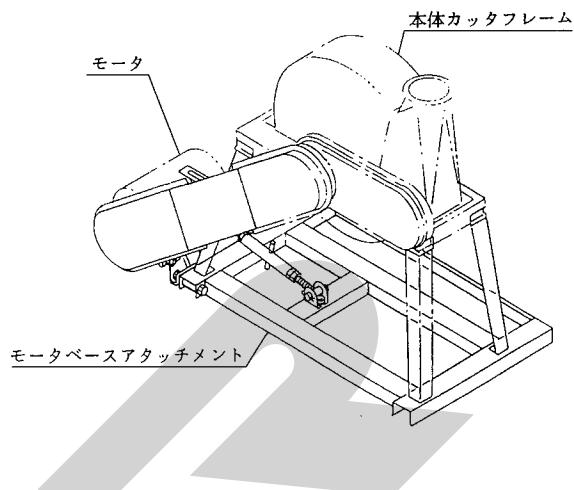
9. コーンシュレッダ [オプション]

デントコーンの実及び茎が破碎しやすいように実の芯・茎にみぞを入れる縦刃です。



10. モータベースアタッチメント [オプション]

本体カッタフレーム（右側方）にモータを組み込み据え付けができます。（飼料カッタに装着可能）



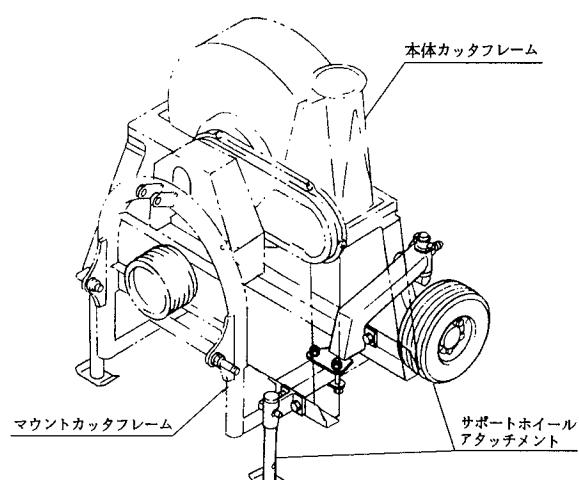
11. サポートホイールアタッチメント [オプション]

(マウントカッタに装着可能)

装着するトラクタによっては前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定になることがあります。

サポートホイールアタッチメントをマウントカッタフレーム部に取付けるとけん引で移動ができます。

尚、サポートホイールアタッチメントを取付けるとフロントウェイトを取り付ける必要はありません。



2 適応原動機又は適応トラクタの範囲

本製品は適切な原動機又は、トラクタとの装着により的確に性能を發揮できるように設計されています。

不適切な原動機又は、トラクタとの装着によっては、本製品の耐久性に著しく影響を及ぼしたり、原動機又は、トラクタの運転操作に著しい悪影響を及ぼすことがあります。

この製品の適応原動機又は適応トラクタは次のとおりです。

	原動機		適応トラクタ
	エンジン馬力	モータ出力	
飼料カッタ	4～10PS	3.7～7.5kW	
マウントカッタ			20～30PS

取り扱い上の注意

適応トラクタ馬力はマウントカッタを直装できるトラクタの範囲を表すもので、所要馬力に相当するものではありません。

3 組立部品

1. 梱

梱包枠に固定されている部品を外してください。

飼料カッタの場合、梱包枠の下台は、カッタベースとして使用します。

2. 組立部品の明細

梱包に同梱されている梱包明細に基づき、必要部品がそろっているか確認してください。

3. 組立要領

取り扱い上の注意

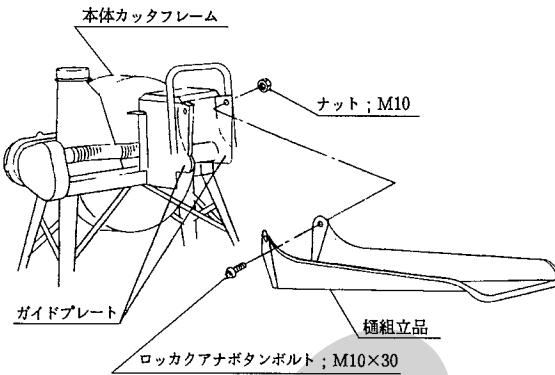
本作業機は重量物のため組立後の移動が容易できません。

本作業機の組立は据え付け場所で行なってください。

尚組立場所は平坦にすると共に作業者の足場と据え付け面を同一面にしてください。

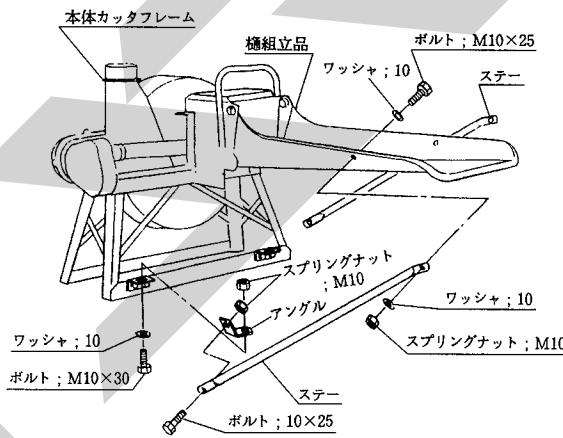
各部品の組立に必要なボルト・ナット類は、梱包明細の符号を参照してください。

- (1) 梱組立品を本体カッタフレームのガイドプレート左右に組み付けます。



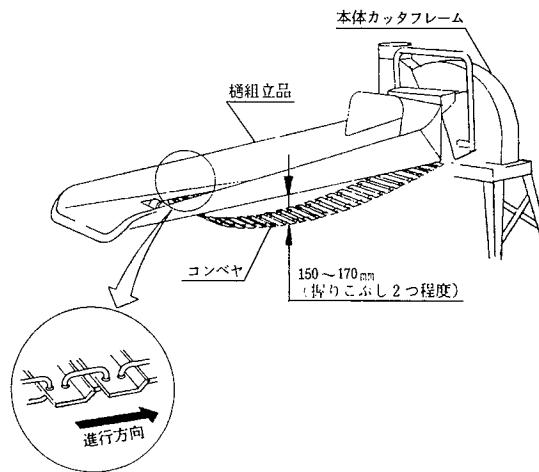
- (2) ステーを組み付けます。

《マウントカッタの場合》



- (3) コンベヤを組み込みます。

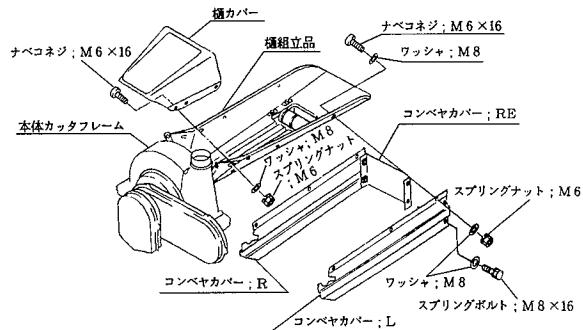
コンベヤのたるみ側中央で梱下面とコンベヤの間が150～170mm（握りこぶし2つ程度）の間隔になるように左右同じ張りに調整します。



取扱い上の注意

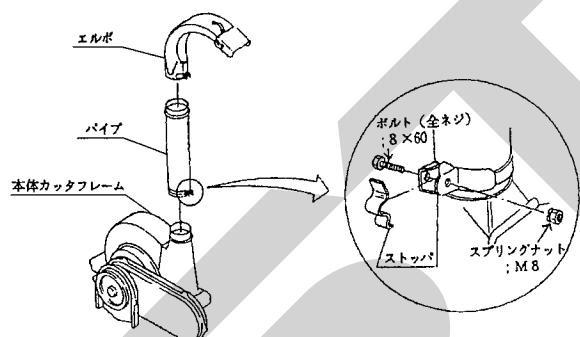
- コンベヤの進行方向を確認して組込んでください。
- コンベヤを張り過ぎると機体の振動・騒音が発生するとともにコンベヤの破損となります。適正寸法で調整してください。

(4) 樋カバー・コンベヤカバー (R・L・Re) を組み付けます。

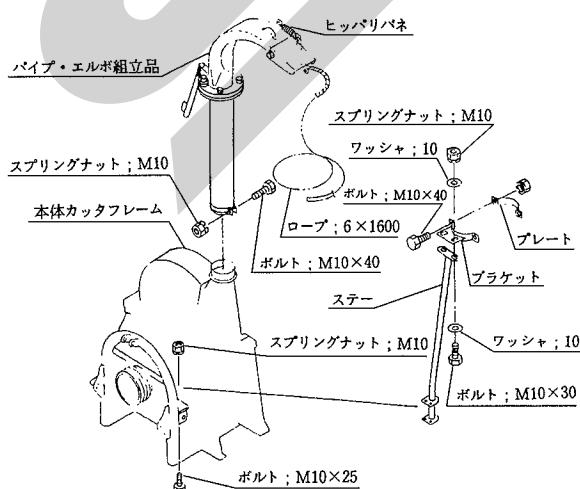


(5) パイプ・エルボを本体カッタフレーム吐出口に組み付けます。

《飼料カッタの場合》

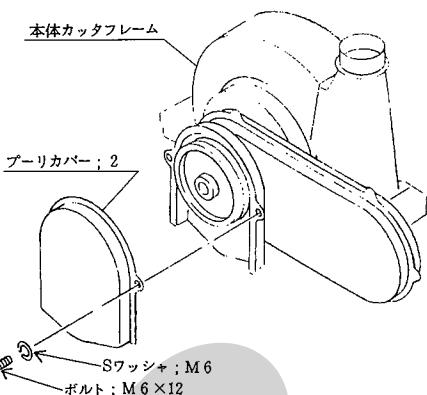


《マウントカッタの場合》

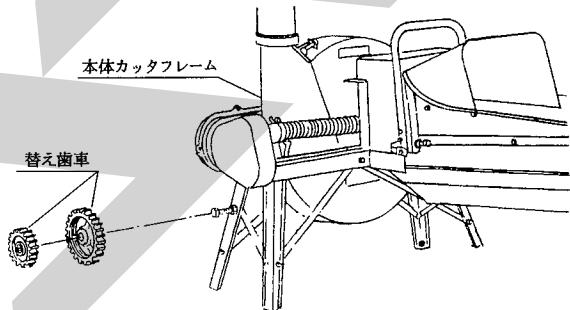


(6) プーリカバー；2を組み付けます。

《飼料カッタの場合》



(7) 使用しない替え歯車を本体カッタフレームギヤボックス下部のフックボルトに引っかけます。



4. オプション品の組立要領

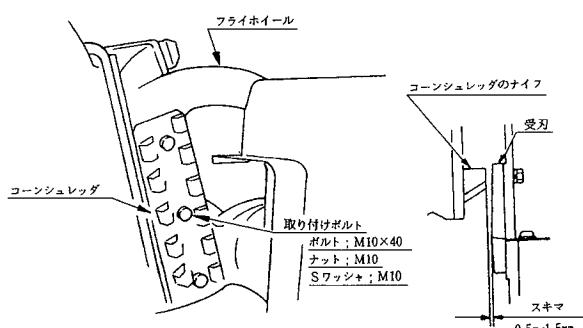
(1) コーンシュレッダ組立要領

フライホイールのフライホイールアームにボルト・ナットで取付けます。

取付け後、フライホイールを手で廻し受刃と接触しないことを確認してください。

取扱い上の注意

稻わら・牧草切断の時はコーンシュレッダ刃部に切断物がからみ付くので本品を取り外し使用してください。



(2) モータベースアタッチメント組込要領

- ① 本体カッタフレームの梱包枠下台を外し、本体カッタフレームをベースに取付けます。
- ② ベースにブラケット・アーム・ハンドル類の部品を組込みモータをアームに乗せ固定します。

取扱い上の注意

モータベースアタッチメントに搭載する適応モータは、3.7~7.5kW・4Pです。

- ③ カッタ側とモータ側のブーリの芯出し後、B形Vベルト#76を2本、それぞれのブーリに掛け渡します。
- ④ ブラケットとアームを押しボルトで固定し、ハンドルを廻してベルトの張りを調整します。

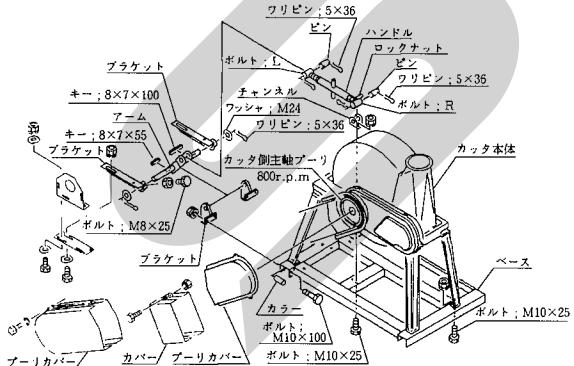
取扱い上の注意

- カッタ主軸回転速度は800rpmです。
「1-4-1 据え付け」に基づき原動機側ブーリ径を決めてください。

- ⑤ 本体カッタ側ブーリカバー；1の方向を調整後、ブーリカバー；2を取付けてください。

▲ 注意

- モータ側ブーリを防護しないで運転すると巻き込まれてケガをすることがあります。カバーなどで防護してください。



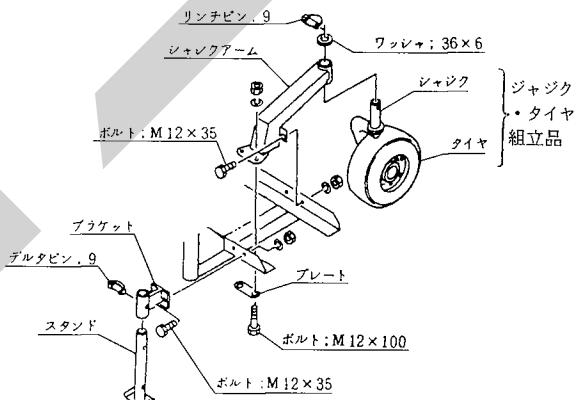
(3) サポートホイールアタッチメント組込要領

- ① マウントカッタをトラクタに連結してください。
- ② トラクタの3点リンクを昇降する油圧レバーを操作してマウントカッタを上昇させてください。
- ③ トラクタ3点リンクの油圧回路に設けられたバルブを閉じてください。

▲ 注意

- マウントカッタを上げた状態のまま下にもぐったり、足を入れたりすると、不意に落下し、ケガをすることがあります。台などで落下防止をしてください。

- ④ マウントカッタフレーム左右にシャジクアーム・スタンドを取付けてください。
- ⑤ シャジクアーム後方にジャジク・タイヤ組立品を挿入しリンチピンで固定してください。
- ⑥ トラクタ3点リンクの油圧回路に設けられたバルブを開き、油圧レバーを操作しサポートホイールアタッチメントの車輪が接地するまで落下させてください。
- ⑦ トップリンクをマウントカッタ側及びトラクタ側から取りはずしてください。
- ⑧ マウントカッタフレームの下側部がほぼ水平になるように、ロワーリンクの高さを調節してください。
- ⑨ トラクタ3点リンクの油圧回路に設けられたバルブを閉じてください。



取扱い上の注意

- 切断作業時、ロワーリンクが動かないよう3点リンクの油圧回路に設けられたバルブを閉じてください。

4 据え付け又はトラクタへの装着

1. 据え付け 《飼料カッタの場合》

▲ 警 告

- エンジン又はモータにブーリを取り付ける時、定められた直径より大きなブーリを取り付けると高速回転によりカッタが破損しケガをすることがあります。定められた直径のブーリを取り付けてください。
- モータにブーリを取り付ける時、定められた直径より大きなブーリを取り付けると高速回転によりカッタが破損しケガをすることがあります。定められた直径のブーリを取り付けてください。

▲ 注 意

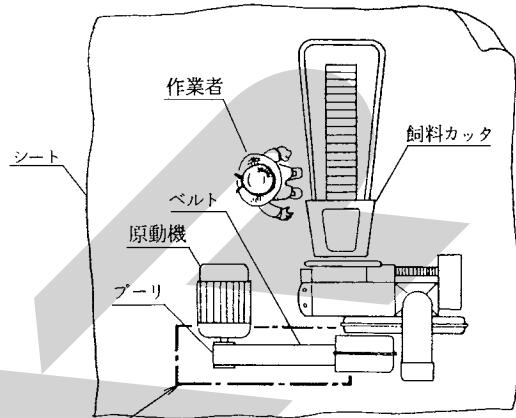
- エンジン又はモータ側ブーリを防護しないで運転すると巻き込まれケガをすることがあります。カバーなどで防護してください。
- エンジンの周囲に可燃物を置くと引火し火災を起こすことがあります。可燃物は置かないでください。
- カッタに動力を伝達するベルトを防護しないで運転すると巻き込まれてケガをすることがあります。カバーあるいは柵などで防護してください。
- ぬれた手でプラグあるいは、モータ側結線部に接触すると感電することができます。ぬれた手でさわらないでください。

- (1) 本作業機は原動機を必要とします。次の要領で原動機側ブーリ径④を求めてください。

$$\textcircled{A} \text{ mm} = \frac{800 \times \text{カッタブーリ径} \text{ (B) mm}}{\text{原動機側回転数} \text{ (C) rpm}}$$

- ① カッタブーリ径(B)は、平ブーリ使用の場合、外径200mmです。
(オプション品・平ベルト幅75×4使用)
Vブーリ使用の場合、外径203mmです。
(VベルトB形2本掛け使用)
- ② 原動機側回転数(C)は、原動機に表示されている連続定格出力回転数です。
- (2) 本体カッタフレームを据え付け面にしっかりと固定してください。

- (3) 作業機側ブーリと原動機側ブーリの芯出しを行い、それぞれのブーリにベルトを掛け渡してください。
- (4) 原動機を移動しベルトの張りを調節してください。
- (5) 原動機を据え付け面にしっかりと固定してください。
- (6) 原動機側ブーリ及びベルトをカバーあるいは柵などで防護してください。



カバーあるいは柵などで防護してください。

取扱い上の注意

原動機及び作業機が振動で移動しないよう据え付け場所にしっかりと固定してください。尚、一つのセット台に原動機及び作業機を固定するとベルトの芯出しや張り調整を容易に行なうことができます。

2. 3点リンクへの連結

《マウントカッタの場合》

▲ 警 告

- トラクタにマウントカッタを着脱するためにトラクタを移動させる時、トラクタとマウントカッタの間に人がいると、挟まれてケガをすることがあります。トラクタとマウントカッタの間に人を近づけないでください。

▲ 注 意

- マウントカッタをトラクタに着脱する時、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こすことがあります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 装着するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をまねくことがあります。トラクタへフロントウェイトを取り付け、バランスを取ってください。

- (1) トラクタのエンジンを始動して、トラクタのロワーリンク先端部と作業機の左右のロワーリンクピンの位置が合うまで後進して、トラクタをとめてください。
エンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてください。
- (2) 左のロワーリンクを連結し、抜けどめにトラクタに付いているリンチピンをロワーリンクピンに差してください。
次に、右のロワーリンクも同順で行ってください。
- (3) 左右のロワーリンクが同じ高さになるように、トラクタ右側のアジャストスクリューで調整してください。
- (4) トップリンクの長さを調節して作業機側とトップリンクピンで連結し、抜けどめにベータピン又はリンチピンを差してください。
- (5) トラクタのエンジンを始動し、トラクタ3点リンクを昇降する油圧レバーを操作して作業機を少し上げ、エンジンをとめてください。
- (6) 作業機中心がトラクタ中心におおよそ一致する位置に、チェックチェーンでセットし、作業機の横振れをなくしてください。
- (7) 3点リンクを下げ、作業機をおろしてください。

5 パワージョイントの装着

《マウントカッタの場合》

▲ 危険

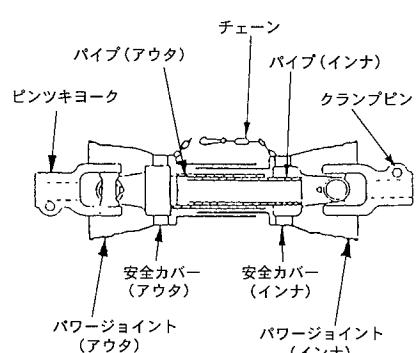
- カバーのないパワージョイントを使用すると、巻き込まれてケガをすることがあります。
カバーのないパワージョイントは、使用しないでください。
- カバーが損傷したまま使用すると、巻き込まれてケガをすることがあります。
損傷したらすぐに取り替えてください。
使用前には、損傷がないか点検してください。
- トラクタおよびマウントカッタに着脱する時、第三者の不注意により、不意にパワージョイントが回転し、ケガをすることがあります。
PTOを切り、トラクタのエンジンをとめて行ってください。
- カバーのチェーンを取り付けないで使用すると、カバーが回転し、巻き込まれてケガをすることがあります。
トラクタ側とマウントカッタ側のチェーンを回転しない所に連結してください。

▲ 注意

- 最伸時の重なりが100mmを下回ると、ジョイントを回転させた時、破損しケガをすることがあります。
最縮時の隙間が25mmよりも小さくなると、ジョイントの突き上げが起きることがあり、ジョイントの破損をまねき、ケガをすることがあります。
適正な重なり量で使用してください。

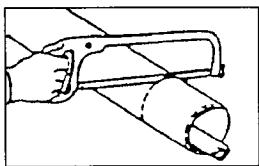
1. 長さの確認方法

- (1) パワージョイント単体で、最縮時の安全カバー（アウタ）端部位置を安全カバー（インナ）にマーキングしてください。
- (2) パワージョイント（アウタ）から、パワージョイント（インナ）を引き抜いてください。
- (3) 3点リンクを昇降させて、PTO軸とPIC軸が最も接近する位置で、昇降を停止してください。
- (4) ピン付ヨークのクランプピンを押して、PTO軸、PIC軸に連結し、クランプピンが元の位置に出るまで押し込んでください。
- (5) 安全カバードラムを重ね合わせた時、安全カバー（アウタ）端部位置とマーキング位置の間隔が25mm以下の場合は、25mmの間隔を保つように切断方法の手順に基づき切断してください。
- (6) 3点リンクを昇降させて、PTO軸とPIC軸が最も離れる位置で、昇降を停止してください。
- (7) 安全カバードラムを重ね合わせた時、パイプの重なりが100mm以下の場合は、販売店に連絡し、長いパワージョイントと交換してください。

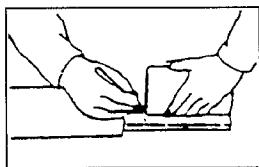


2. 切断方法

(1) 安全カバーのアウタ・インナ両方を長い分だけ切り取ります。



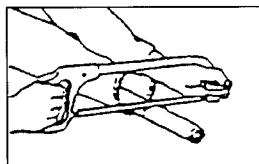
(2) 切り取った同じ長さをパイプの先端から計ります。



(3) パイプのアウタとインナ両方を金ノコまたはカッターで切断します。

切断する時は、パ

イプの中にウエスを詰め、パイプ内面に切り粉が付着するのを防いでください。

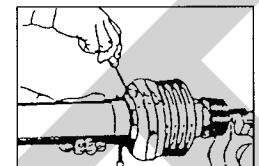


(4) 切り口をヤスリなどでなめらかに仕上げてからパイプをよく清掃し、次にグリースを塗布して、アウタとインナを組み合わせます。

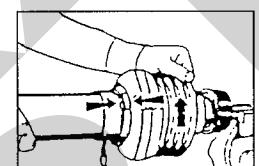
3. 安全カバーの脱着方法

(1) 安全カバーの分解手順

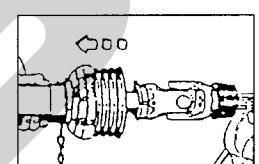
① 固定ネジを取り外してください。



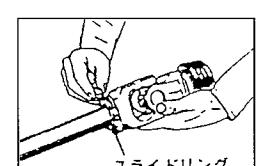
② 安全カバーを取り外し位置へ回してください。



③ 安全カバーを引き抜いてください。

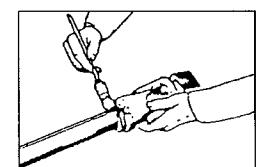


④ スライドリングを取り出してください。

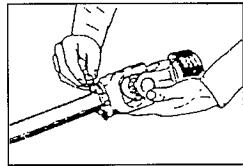


(2) 安全カバーの組立手順

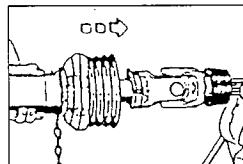
① ヨークのスライドリング溝とパイプ(インナ)にグリースを塗ってください。



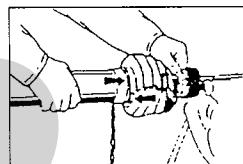
② スライドリングのつばをパイプ側に向け、切口を開いて溝にはめてください。



③ その上に、安全カバーをはめてください。



④ カバーをしっかりと止まるまで回してください。



⑤ 固定ネジを締め付けてください。

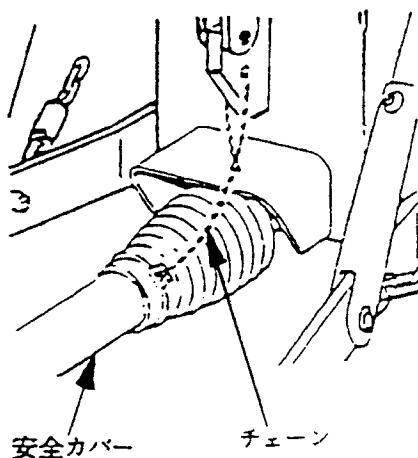
4. パワージョイントの連結

▲ 注意

●パワージョイントを接続した時、クランプピンが軸の溝に納まっていると、使用中に外れ、ケガをする事があります。溝に納まっているか、接続部を押し引きして確かめてください。

(1) ピン付きヨークのクランプピンを押して、PTO軸、PI C軸に連結し、クランプピンが元の位置に戻るまで押し込んでください。

(2) 安全カバーのチェーンを回転しない所に取り付け、カバーの回転を防いでください。チェーンの張りは、3点リンクの動きに順応できる余裕を持たせ、また他への引っかかりなどがないよう余分なたるみをとってください。



2 運転を始める前の点検

機械を調子よく長持ちさせるため、作業前に必ず行いましょう。

▲ 注意

- 始業点検を怠ると、機械の調整不良や破損、傷害事故をまねくことがあります。
作業を始める前には、取扱説明書に基づき点検を行なってください。

1 運転前の点検

1. 原動機又はトラクタ各部の点検

原動機又はトラクタの取扱説明書に基づき点検を行なってください。

2. 連結部の点検

《マウントカッタの場合》

(1) 3点リンクの連結部点検

- ロワーリンク・トップリンクのリンチピン・ベータピンは、確実に挿入されているか。
- チェックチェーンは張られているか。
- 不具合が見つかった時は、「1-4-2 3点リンクへの連結」の説明に基づき不具合を解消してください。

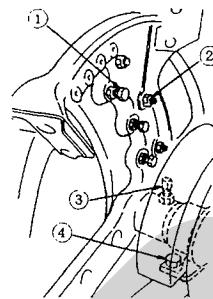
(2) パワージョイントの点検

- ジョイントの抜け止めのクランプピンが軸の溝に納まっているか。
- ジョイントカバーのチェーンの取付けに余分なたるみがないか。また、適度な余裕があるか。
- ジョイントカバーに損傷はないか。
- 不具合が見つかった時は「1-5 パワージョイントの装着」の説明に基づき不具合を解消してください。

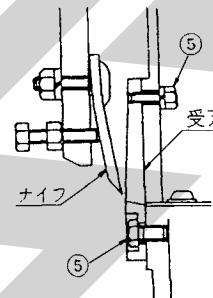
3. 製品本体の点検

- 各部のボルト・ナットにゆるみがないか。又ピン類の脱落はないか。特に次の箇所は、入念に行なってください。
 - 符号① ナイフ調整押しボルト・ナット
 - 符号② ナイフ取付けボルト・ナット
 - 符号③ フライホイール取付けボルト・ナット

符号④ 主軸軸受取付けボルト・ナット



符号⑤ 受刃取付けボルト・ナット



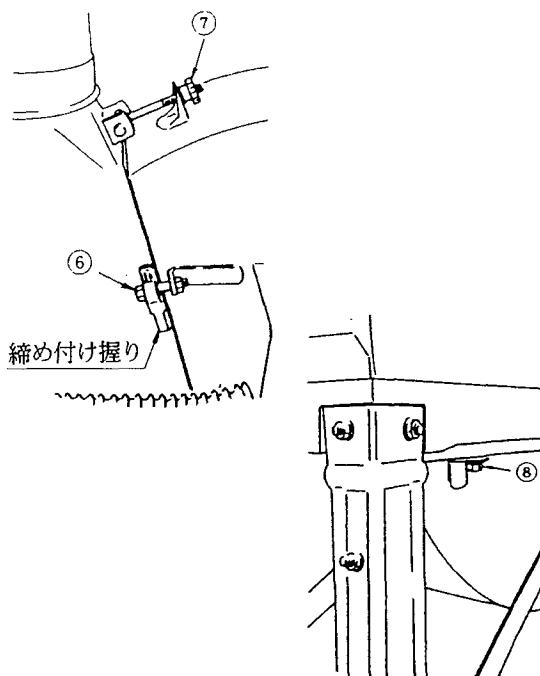
符号⑥ 上ケーシング締め付け握りボルト・ナット

符号⑦ 上ケーシングロックナット

符号⑧ ボトムケーシング取付けボルト

取扱い上の注意

締め付け握りの締め付け力が弱い時は、多少きつめに締め付ける状態までナットを締め込んでください。



- (2) コンベヤの張り過ぎ又はゆるみ過ぎはないか。

不具合が見つかった時は「1-3-3-3 コンベヤの組込み」の説明に基づき不具合を解消してください。

- (3) 各部の給油は十分か。

油脂が不足している時は、「2-3 給油箇所一覧表」の説明に基づき給油してください。

- (4) タイヤの空気圧は十分か。

《サポートホイールアタッチメントの場合》

空気圧=310KPa (3.2kg/cm²)

2 原動機又はトラクタエンジン始動での点検

▲ 警告

● カッタのクラッチを切らないでエンジン又は、モータを始動すると、急にカッタが駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。クラッチを切ってから始動してください。

● トラクタのエンジンを始動する時 P T O 及びカッタのクラッチを切らないで始動すると、急にマウントカッタが駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。

P T O 及びカッタのクラッチを切ってから始動してください。

1. 原動機又はトラクタエンジン始動での点検

- (1) クラッチを停止の位置にし、原動機（エンジン・モーター）又は、トラクタエンジンを始動してください。
- (2) カッタを回転させ、カッタ本体に異常音や異常振動がないか確認してください。
- (3) クラッチを「前進」・「後退」に入れ上下ロール及びコンベヤ部に異常音や異常振動がないか確認してください。
- (4) 不具合が見つかった時は「6-1 不調処置一覧表」に基づき不具合を解消してください。

取扱い上の注意

「前進」「後退」にクラッチを操作する時はレバーを一度「停止」でとめ、上下ロールが停止してから行なってください。

2. 常用回転数

- (1) 飼料カッタ常用回転数

800rpm (フライホイール主軸)

- (2) マウントカッタ常用回転数

540rpm (トラクタ P T O 軸、変速 1 段)

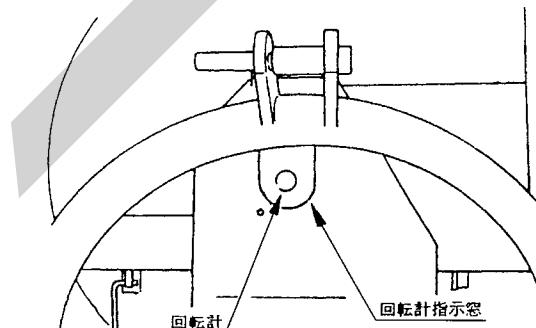
取扱い上の注意

マウントカッタには、回転計が組み付けられています。

適正回転になると回転計指示窓に青色が表示されます。

常用回転数を越えると、赤色が表示されます。

赤色が表示されたら、ただちに青色の表示になるまで回転速度をさげてください。



3 給油箇所一覧表

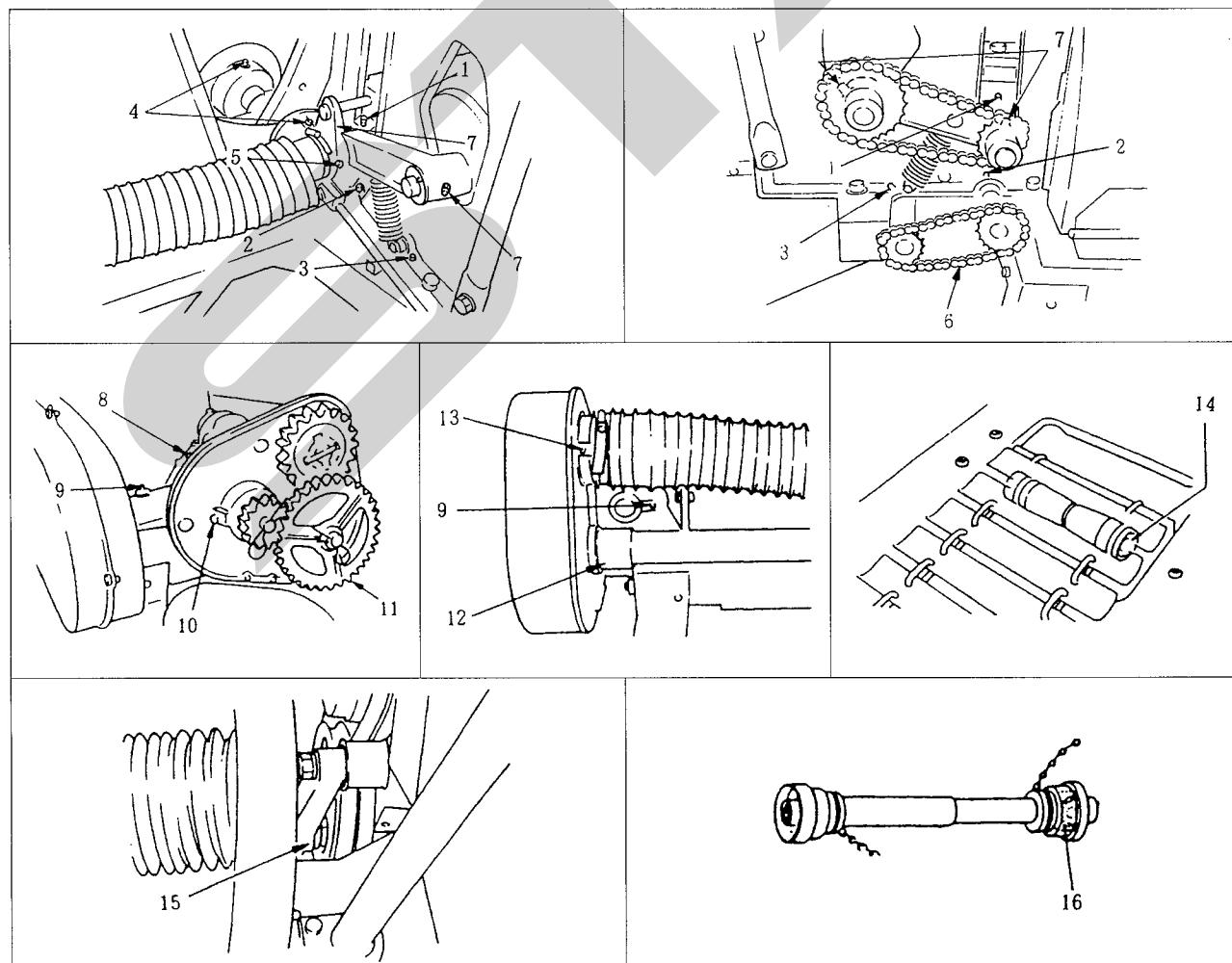
○給油、塗布する油は、清浄なものを使用してください。

○グリースを給脂する場合は、古いグリースが排出され、新しいグリースが出るまで行なってください。

○出荷時には、十分給油してありますが、使用前に確認してください。

No.	給油箇所	箇所	潤滑油の種類	給油時間	備考
1	上ロール軸受；R・L	2	グリース	使用ごと	
2	下ロール軸受；R・L	2	"	"	
3	五角車軸受；R・L	2	"	"	
4	主軸軸受；F・RE	2	"	"	
5	軸受	1	"	"	
6	五角車駆動チェーン	—	オイル又はグリース	"	
7	補助ロールアーム；R・L	4	グリース	"	
8	ギヤボックス	1	"	使用初期30時間後 その後100時間ごと交換	交換量300～350g
9	ギヤボックス(クラッチ軸)	2	"	使用ごと	
10	ペベルホイール軸受	1	"	"	
11	歯車歯面	—	オイル又はグリース	"	
12	ギヤボックス(下ロール軸受)	1	グリース	"	
13	上ロールギヤ軸受	1	"	"	
14	後部コンベヤロール	2	オイル	"	
15	テンションアーム軸受	1	グリース	"	
16	パワージョイント	2	"	"	マウントカッタ

※回転、回動支点およびパワージョイントのクランプピンを含む摺動部にはオイルを注油し、又、PTO軸、P.I.C軸、パワージョイントのスライド部にはグリースを塗布してください。



3. 作業の仕方

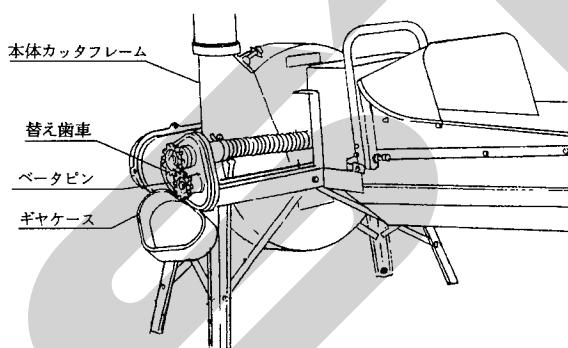
1. 本製品の使用目的

1. 本製品は飼料の細断としてデントコーン・稻ワラ・牧草の切断吹上げに使用します。
他の用途には、使用しないでください。
2. 本製品は、作業者が操作しやすく飼料細断物が容易に供給できる広さのある場所に据え付けて使用してください。
又、雨降り時や雨上がり直後のほ場、ぬかるみのあるほ場では、作業を行なわないでください。

2. 各部の調整

1. 切断長さの調整

切断長さは、替え歯車の組合せで行ないます。出荷時は、切断長さ20mm(20枚×31枚)にセットされています。
切断長さを変更する時はギヤケースを開き、ベータピンを抜き、下表に従い替え歯車を差し替えてください。



切断長さ歯車組合せ表

切断長さ	10mm	20mm	45mm	60mm
替え歯車組合せ	13 38	20 31	31 20	38 13

取扱い上の注意

切断長さ45mm・60mmの場合は、コンベヤ速度が非常に速く危険ですのでコンベヤを取り外して使用してください。

2. コンベヤの張り調整

「1-3-3-3 コンベヤの組込み」の説明に基づき調整してください。

3. ナイフと受刃の隙間調整

▲ 注意

- ナイフを調整する時、不意にフライホイールが回転し、取り付けられたナイフでケガをすることがあります。
フライホイールの回り止めを確実に行い、作業してください。

(1) ナイフ調整押しボルトで左右均等に少しづつナイフを押し出しナイフと受刃との隙間を調整します。

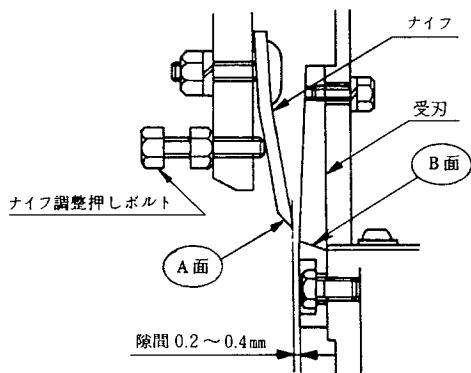
隙間は内側(主軸軸受側)は0.2mm、外側(フライホイール羽根側)は0.4mmに調整します。

(2) ナイフの切味は、直接、作業能率に影響します。

又、草やワラの巻き付きの原因ともなりますので常にナイフと受刃の隙間確認とナイフならびに受刃の研磨を行なってください。

取扱い上の注意

ナイフ及び受刃はそれぞれA面・B面だけを研磨してください。



取扱い上の注意

主にロールサイレージを切断される場合は、ロールサイレージ切断用スクレーパ(オプション品)に組換えて使用してください。

- 切断物のクズ類がスクレーパ裏側にへばりつき日がたつにつれ水分が抜け硬くなりスクレーパの曲損につながります。

作業前又は、作業後にへばりついたクズ類を取除いてください。

3 作業要領

▲ 危険

- 運転中又は回転中、ローラに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。供給口から中には、手を入れないでください。
- 運転中又は回転中、フライホイールに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。吐出口から中には、手を入れないでください。

▲ 警告

- 運転中又は回転中、ケーシングを開けると、回転刃およびフライホイールに接触し、ケガをする事があります。ケーシングを開けないでください。
- 作業をする時、周囲に人を近づけると、機械に巻き込まれ、ケガをする事があります。周囲に人を近づけないでください。
- カッタ指定の回転速度を超えて作業すると、カッタの破損により、ケガをする事があります。指定回転速度を守ってください。
- カッタの上に人が乗ったり物を載せるとケーシング等が変形し、フライホイールでケーシング等を破損しケガをすることがあります。
カッタの上に人が乗ったり、物を載せたりしないでください。
- トラクタまたはエンジンを使用して納屋やハウスなどでの室内作業をする時、排気ガスにより中毒になる事があります。窓、戸などを開け、十分に換気をしてください。
- マウントカッタでは、トラクタから離れる時、傾斜地や凹凸地などに駐車すると、トラクタが暴走して思わぬ事故を起こす事があります。
平坦で安定した場所に駐車し、トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけて暴走を防いでください。
- トラクタから離れる時、マウントカッタをあげたままにしておくと、第三者の不注意により不意に降下し、ケガをする事があります。
下限まで降ろしてからトラクタを離れてください。
- カッタのクラッチを切らないでエンジン又はモーターを始動すると、急にカッタが駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。クラッチを切ってから始動してください。

- トラクタエンジンを始動する時PTO及びカッタのクラッチを切らないでエンジンを始動すると、急にマウントカッタが駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。

PTO及びカッタのクラッチを切ってから始動してください。

▲ 注意

- 運転中又は回転中、吐出物が当たり、ケガをする事があります。
吐出方向に近づかないでください。
- 運転中又は回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。カバーを開けないでください。
- カバーの開放部から手を入れると、回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。手を入れないでください。
- カッタあるいはマウントカッタの調整や、付着物の除去などを行なう時、動力を切らずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。動力を切り、回転部がとまっていることを確かめて行なってください。

《飼料カッタの場合》

1. 細断物を放出したい方向にエルボの吐出口を向けてください。
2. カッタのクラッチを切ってください
3. 原動機を始動し、低速で回転させてください。
4. カッタのクラッチを「前進」に入れてください。
5. 原動機を定格回転速度まで上げてください。
6. コンベヤに細断物を乗せてください。細断物は無理に押し込まず均一で一定量づつ連続して供給してください。

— 取扱い上の注意 —

- 作業中、ケーシングや円筒に細断物が詰まった時はすぐに供給をやめ、カッタのクラッチを切りさらに原動機の回転を停止させてから詰りを取り除いてください。
- カッタを回転させながら円筒をたたいて詰りを取り除くことはしないでください。

《マウントカッタの場合》

1. マウントカッタを接地させてください。
2. 細断物を放出したい方向にエルボの吐出口を向けてください。
3. トラクタの変速を「N」にし駐車ブレーキを掛けしてください。
4. カッタのクラッチ及びトラクタのPTOを切ってください。
5. トラクタのエンジンを始動し、低速で回転させてください。
6. カッタのクラッチを「前進」に入れトラクタのPTOを入れてください。
7. トラクタのエンジン回転速度を540rpmまで上げてください。

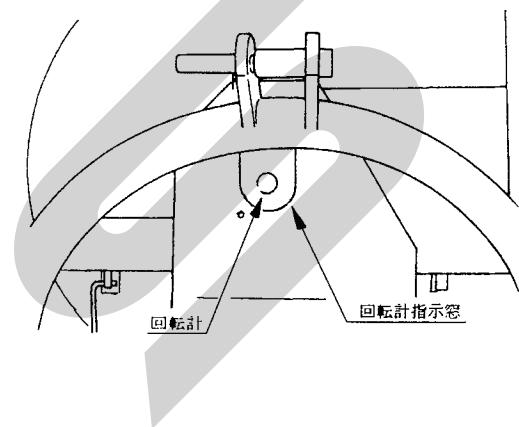
取扱い上の注意

マウントカッタには回転計が組み付けられています。

トラクタPTO回転速度が540rpm近くになると回転計表示窓に青色が表示されます。

PTO回転速度が540rpmを越えると赤色が表示されます。

赤色が表示されたら、ただちに青色の表示になるまで回転速度を下げてください。



8. コンベヤに細断物を乗せてください。

細断物は無理に押し込まず均一で一定量づつ連続して供給してください。

取扱い上の注意

- 作業中、ケーシングや円筒に細断物が詰まった時は、すぐに供給をやめ、カッタのクラッチとトラクタPTOを切りエンジンをとめてから詰りを取り除いてください。
- カッタを回転させながら円筒をたたいて詰りを取り除くことはしないでください。

牧草切斷での取扱い上の注意

1. 硬く梱包された牧草は、供給前にほぐしてください。

2. 茎の硬い牧草の場合は、上ロール廻わりのスキマにささり込み上ロールの上下の動きが悪くなります。

作業前又は、作業後に適時取除いてください。

3. 供給当初、牧草の固まりを供給すると上・下ロール手前で停滯する傾向が生じます。

この状態で供給を続けますと上・下ロール等の供給部廻わりに巻付きが生じますので停滯が生じた場合は、ただちにクラッチを「停止」に操作し、その後「後進」に入れ取除いてください。

4. 供給当初は、牧草の固まりのない状態で少な目に供給し徐々に量を多目にしていき上ロールが上方に上がった状態で一定量連續供給してください。

もし、供給がとだえ上ロールが下がった場合は、再度同じ要領で行なってください。

4 運 搬

《マウントカッタの場合》

▲ 警 告

- 旋回する時、作業機が旋回方向とは逆方向にふくられるため、周囲の人々に接触しケガをさせたり、対向物・障害物に衝突しケガをする事があります。
周囲の人々や対向物・障害物との間に十分な間隔を保って行ってください。
- 側面が傾斜していたり、側溝がある通路で路肩を走行すると転落事故を起こすことがあります。路肩は走行しないでください。
- 高低差の大きい断差を乗り越えようすると、トラクタが転倒あるいは横転し、ケガをすることがあります。あゆみ板を使用してください。
- マウントカッタの上に人を乗せると、転落し、ケガをすることがあります。また、物を載せて走行すると、落下し、周囲の人々へケガを負わせることがあります。マウントカッタの上には、人や物などはのせないでください。

▲ 注 意

- マウントカッタへの動力を切らないで走行すると、周囲の人々を回転物に巻き込み、ケガを負わせる事があります。
移動走行する時は、PTOを切ってください。

1. パイプ・エルボ組立品の放出口を機体側方より出ないよう機体内側に廻わしてください。

2. 3点リンクで作業機を持ち上げてください。

3. トラクタの3点リンクの下降を防止して移動を開始してください。

※1. マウントカッタにASW3000サポートホイールアタッチメントを組み込み使用される場合は、3点リンクで作業機を持ち上げ、スタンドを上方向に格納し、作業機を水平にした後、トップリンクを外しトラクタの3点が動かないよう油圧レバーを固定しトラクタロワーリングでけん引移動します。

4 作業が終わったら

長持ちさせるために、手入れは必ずしましょう。

▲ 注意

- 動力を切らずに、回転部・可動部の付着物の除去作業などを行うと、機械に巻き込まれてケガをする事があります。
動力を切り、回転部がとまっている事を確かめて行ってください。
- 作業後点検を怠ると、機械の調整不良や破損などが放置され、次の作業時にトラブルを起こしたり、ケガをする事があります。
作業が終わったら、取扱説明書に基づき点検を行ってください。
- 3点リンクでマウントカッタを持ち上げて点検・調整を行う時、第三者の不注意により、不意に降下し、ケガをする事があります。トラクタ 3点リンクの油圧回路をロックして行ってください。

1 作業後の手入れ

1. 機械の上に付着している細断物をきれいに取り除いてください。

特に、ケーシング内部の残存物や巻き付いた細断物は、シール部品、軸受部品等を傷つけますので、完全に取り除いてください。

2. ボルト・ナット、ピン類のゆるみ、脱落がないか。また、破損部品がないか確認してください。

異常があれば、ボルトの増締め、部品の交換をしてください。

3. ナイフの切味は、直接作業能率にも影響します。

又、細断物の巻き付きの原因ともなります。ナイフと受刃との隙間は適正か。又、ナイフと受刃の刃欠けや摩耗がないか確認してください。

不具合が見つかった時は「3-2-3 ナイフと受刃の隙間調整」の説明に基づき不具合を解消してください。

4. ナイフ、受刃は消耗品です。
早めに予備品を準備してください。

5. P T O 軸、P I C 軸、ジョイントスライド部など、塗装されていない露出部は、錆を防ぐためグリースを塗布してください。

《マウントカッタの場合》

6. トラクタからマウントカッタを外す時は、スタンドをたててから行なってください。

《サポートホイールアタッチ使用の場合》

7. トラクタからマウントカッタを外したら、マウントカッタからパワージョイントを外し、本機と一緒に保管してください。

《マウントカッタの場合》

2 長期格納する時

1. 機械各部の清掃をしてください。

2. 摩耗した部品、破損した部品は交換してください。

3. 給油箇所一覧表に基づき、油脂を補給してください。

4. 塗装損傷部を補修塗装、又は、油を塗布し錆の発生を防いでください。

5. 格納は風通しの良い屋内に保管してください。やむをえず屋外に保管する時は、シートをかけてください。

5 点検と整備について

調子よく作業するために、定期的に行いましょう。機械の整備不良による事故などを未然に防ぐために、「点検整備一覧表」に基づき、各部の点検整備を行い、機械を最良の状態で、安心して作業が行えるようにしてください。

▲ 注意

- 機械に異常が生じた時、そのまま放置すると、破損やケガをする事があります。
取扱説明書に基づき処置してください。
- 動力を切らずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。
動力を切って、回転部がとまっている事を確かめて行ってください。
- マウントカッタをあげた状態のまま、下にもぐったり、足を入れたりすると、不意に降下し、ケガをする事があります。下に入る時は、台などで降下防止をして行ってください。
- 不調処置・点検・整備のために外したカバー類を取り付けずに作業すると回転部に巻き込まれ、ケガをする事があります。
元通りに取り付けてください。

1 点検整備一覧表

時 間	点 檢 項 目	処 置
新品使用 1 時間	<ul style="list-style-type: none"> ●全ボルト・ナットのゆるみ ●各部の給油 ●ナイフ・受刃の隙間 ●回転部・駆動系の異常音 	増し締め 「2-3 純正部品一覧表」に基づき不足の場合は処置 「3-2-3 ナイフと受刃の隙間調整」に基づき処置 「6 不調時の対応」に基づき処置
作 業 前	<ul style="list-style-type: none"> ●機械の清掃 ●ナイフ・受刃の摩耗、刃欠け ●ナイフ・受刃の隙間 ●ケーシング（ボトムケーシング・トップケーシング・タテカバー）・エルボ・ダクト・フライホイールブレードの摩耗 	研磨、交換 「3-2-3 ナイフと受刃の隙間調整」に基づき処置 交 換
	<ul style="list-style-type: none"> ●ボルト・ナット・ピン類のゆるみ、脱落 ●回転部・駆動系の異常音・異常振動 ●回転部・可動部の給油、注油、給脂 ●パワージョイント、カバー、チェーンの破損 ●タイヤ空気圧 ●駆動ベルトの張り具合、破損 	増し締め、部品補給 「6 不調時の対応」に基づき処置 「3-3 純正部品一覧表」に基づき給油 交 換 310KPa (3.2kg/cm ²) 調整、交換
シーズン終了後	<ul style="list-style-type: none"> ●破損部 ●ナイフ・受刃の消耗 ●ケーシング（ボトムケーシング・トップケーシング・タテカバー）・エルボ・ダクト・フライホイールブレードの消耗 ●各部の清掃 ●塗装損傷部 ●回転支点、ピン等の摩耗 	補 修 研磨、交換 交 換 塗装または油塗布 交 換

6 不調時の対応

万一機械の調子が悪い場合は、不調処置一覧表により処置をしてください。

1 不調処置一覧表

	症 状	原 因	処 置
回転 (ナイフ・受刃・ライホイール) 部	●異常音・異常振動	<ul style="list-style-type: none"> 機体の据え付け(設置)が不安定 マウントカッタを3点リンクで持上げ作業 ナイフと受刃の接触 フライホイールブレードとケーシングに細断物がはさまっている フライホイールやナイフに細断物が付着したり巻き付いている 細断物に小石や砂が混入 	<ul style="list-style-type: none"> 平坦な凹凸のない場所に設置する 3点リンクを下げ作業機を平坦な場所に設置する 「3-2-3 ナイフと受刃の隙間調整」に基づき調整する
	●ナイフの刃欠け	<ul style="list-style-type: none"> 細断物に小石や砂が混入 飼料用細断物(デントコーン・稻ワラ・牧草)以外のものを投入 	<ul style="list-style-type: none"> 作業前後の点検で付着物や巻き付いたものを取除く シートを敷きその上に細断物を集積して混入を防ぐ シートを敷きその上に細断物を集積して混入を防ぐ 飼料用細断物(デントコーン・稻ワラ・牧草)以外のものは投入しない
	●フライホイール軸・軸受に巻き付く	<ul style="list-style-type: none"> ナイフと受刃の隙間不良 ナイフの切味の低下 	<ul style="list-style-type: none"> 「2-2-3 ナイフと受刃の隙間調整」に基づき調整する ナイフ・受刃を研磨又は交換する
コンベヤ・供給ロール部	●上・下ロールの送りが悪い	<ul style="list-style-type: none"> 牧草のかたまりを投入している 稻ワラ束の株側から投入している デントコーン束の茎側から投入している 	<ul style="list-style-type: none"> かたまりをほぐし一定量を均一に連続投入する 細断物束の穂先側から投入し一定量を均一に連続投入する
	●上ロールの上下の動きが悪い	上下する上ロール軸受部に細断物がはさまっている	はさまっている細断物を取除く
	●コンベヤ速度が速い	長切り(45mm・60mm)の切断	コンベヤ速度が速く危険、コンベヤを取外して使用
	●コンベヤの振動が激しい	<ul style="list-style-type: none"> 長切り(45mm・60mm)の切断 コンベヤの張りが不適 	<ul style="list-style-type: none"> コンベヤを取外して使用する 「1-3-3 コンベヤの組込み」に基づき調整する
	●切断長さがばらつく	牧草の束・かたまりを断続的に投入している	かたまりをほぐし一定量を均一に連続投入する
機体 部	●クラッチが抜ける	クラッチ・ベベルピニオンF; 12T・ベベルピニオンR E; 12Tの爪摩耗	<ul style="list-style-type: none"> 部品交換 「前進」・「後退」に操作したとき、「停止」の位置でロールが止まってから操作する
	●軸受類の穴が大きくなつた	給油不足の状態で作業したため摩耗	<ul style="list-style-type: none"> 部品交換 「2-3 給油箇所一覧表」に基づき給油する
	●ベルトがすべる	<ul style="list-style-type: none"> ベルトの張り不良 細断物供給量過多による過負荷 	<ul style="list-style-type: none"> 張り調整する 供給量を少なくし、一定量を均一に連続投入する
	●ベルトが外れる	<ul style="list-style-type: none"> 定置で原動機(エンジン・モータ)を使用時、振動で機体が移動する ブーリーの芯が合っていない ベルトの張りが不足している 	<ul style="list-style-type: none"> 原動機及び機体を動かないよう固定する 芯を合わせる 張り調整する
	●パイプ内につまる	<ul style="list-style-type: none"> 吹上げパイプが斜めに据え付けてある パイプの径が違う パイプ内が錆でいる パイプがつぶれ変形している 放出口のエルボ・ダクトの形状が悪い(純正品を使用していない) 	<ul style="list-style-type: none"> 垂直に据え付ける 当社純正品を使用する 錆を落す、又は交換 部品交換 当社純正品を使用する

原因や処置のしかたがわからない場合は、下記事項とともに購入先にご相談ください。

1. 製 品 名
2. 部品供給型式(型式)
3. 製 造 番 号
4. 故 障 内 容(できるだけ詳しく)

型式・仕様について

型 式

お買い上げいただきました飼料カッタ型式SFC2340、マウントカッタ型式MFC2340は、いずれも安全鑑定型式スターSFC23で安全鑑定に合格しており、この内容で本機に銘板を貼付しています。

安全鑑定型式	当社型式(区分)		仕 様
スターSFC23	飼 料 カ ッ タ	SFC2340	ス テ ン レ ス
	マウント カ ッ タ	MFC2340	ス テ ン レ ス

仕 様

型 式	SFC2340		MFC2340
名 称	飼料カッタ(23cm)		マウントカッタ(23cm)
駆 動 方 法	エンジン又は電動機		トラクタPTO
所 要 馬 力	4~10PS(3.7~7.5kW)		—
適 応 ト ラ ク タ	—		20~30PS(注1)、3点リンク直装
吹 上 げ 排 出 口 径	135mm		135mm
常 用 回 転 数	800rpm(主軸)		540rpm(PTO)
切 断 長 さ	10mm、20mm、45mm、60mm		
吹 上 げ 能 力	最大12m(注2)		
切 断 能 力	最大6,600kg/Hr(切断長さ20mm、水分85%、デントコーン切断の場合) 最大1,200kg/Hr(切断長さ20mm、水分15%、稻ワラ切断の場合)		

注1. 適応トラクタは、マウントカッタを直装できるトラクタの範囲を表すもので、所要馬力に相当するものではありません。カッタのさい断に必要とする馬力は4~10PSです。

注2. 吹上げ能力はデントコーン切断によるもので牧草切断の場合、最大値の50~70%になります。







調整

S-070601E

本 社	066-8555	千歳市上長都 1061番地2 TEL 0123-26-1123 FAX 0123-26-2412
千歳営業所	066-8555	千歳市上長都 1061番地2 TEL 0123-22-5131 FAX 0123-26-2035
旭川営業所	070-8004	旭川市神楽4条9丁目3番35号 TEL 0166-61-6131 FAX 0166-62-8985
豊富営業所	098-4100	天塩郡豊富町字上サロベツ1191番地44 TEL 0162-82-1932 FAX 0162-82-1696
帯広営業所	080-2462	帯広市西22条北1丁目12番地4 TEL 0155-37-3080 FAX 0155-37-5187
中標津営業所	086-1152	標津郡中標津町北町2丁目16番2 TEL 0153-72-2624 FAX 0153-73-2540
花巻営業所	028-3172	岩手県花巻市石鳥谷町北寺林第11地割120番3 TEL 0198-46-1311 FAX 0198-45-5999
仙台営業所	983-0013	宮城県仙台市宮城野区中野字神明179-1 TEL 022-388-8673 FAX 022-388-8735
小山営業所	323-0158	栃木県小山市梁2512-1 TEL 0285-49-1500 FAX 0285-49-1560
名古屋営業所	480-0102	愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字南屋敷191 TEL 0587-93-6888 FAX 0587-93-5416
岡山営業所	700-0973	岡山県岡山市下中野704-103 TEL 086-243-1147 FAX 086-243-1269
熊本営業所	861-8039	熊本県熊本市長嶺南1丁目2番1号 TEL 096-381-7222 FAX 096-384-3525
都城営業所	885-1202	宮崎県都城市高城町穂満坊1003-2 TEL 0986-53-2222 FAX 0986-53-2233